平成30年度　白石町立有明南小学校　学校評価結果

3　目標・評価

①学校・家庭・地域の連携強化・・・地域のよさを発見し，地域に貢献しようとする児童の育成

領域	評価項目	評価の観点（具体的	具体的目標	具体的方策	達成	成果と課題	具体的な改善策・向上策
学校運営	○学校経営方針	本年度基本方針の周知	・基本方針「チャレンジ・リレーションで笑顔作り」を教職員，児童，保護者等へ周知し，認知度を85％以上にする。	・PTA総会，学校便り，学校HP，学級保護者会，児童集会，職員会議を通して周知を図る。 ・学校評価を活用した実践と公表を行い，職員の意識化と保護者，地域への周知を図る。	A	・本年度の重点目標の認知度は、児童97%、地域97%、保護者95%、教職員100%で、学校便りや対保護者・児童への度重なる周知の成果だと考える。また、児童が委員会活動でも取り組んだことも、成果につながっている。今後は、重点目標を児童の発達段階に合わせ、具体的な指導を行わなければならない。	・重点目標の周知をこれまで同様に、PTA総会や学校便り、学校HPや学校運営協議会などいろいろな機会を通して広めなければならない。 ・小学校は発達段階に大きな差が見られるので、児童の発達段階に合わせ、重点目標に具体性を持たせなければならない。
	○教職員の資質向上	教師の授業力向上	・校内研究での道徳の時間を中心に「多面的・多角的な見方・考え方」というキーワードを基に授業研究，授業公開を全職員が実施し，授業力向上に努める。	・道徳の時間の全体授業研究会を年3回実施し，全体の共通理解を図りながら研究を深めていく。 ・自分の思いや考えを伝え合う場や，道徳的価値の自覚を図る発問・板書・ワークシートの工夫に取り組む。 ・積極的に一人1回は授業を公開し，互いに学び合い，高め合う場を設定する。 ・全教科等で，「多面的・多角的な見方・考え方」というキーワードをもとにした授業実践を行う。	A	・全体授業研やグループ研において，全教職員が参観し，事後の研究会で研究を深めることができた。 ・研究授業を中心に，自分の思いや考えを伝え合う場（みなみタイム）や，道徳的価値の自覚を図る発問・板書・ワークシートのよりよい工夫について考えることができた。 ・道徳だけでなく，算数科において「多面的・多角的な見方・考え方」という視点で研究授業を行い，研修を深めることができた。	・道徳の時間だけでなく，他教科でも日頃から自分の考えを伝え深める場（みなみタイム）を取り入れ，効果的な実践について研究を深めていく必要がある。 ・教科化になった「道徳科」における評価について，具体的方法・視点等の研究を深め，実践していかなければいけない。 ・授業のユニバーサルデザインについては，今後も取り組みを続け，研修を深めていかなければならない。
	○学校づくり	保護者・地域への情報発信と連携の強化	・保護者や地域の学校教育への関心を高め，授業参観やPTA総会等への参加率，ノーテレビノーゲームデーの実施率を上げる。 ・学校運営協議会を通して，地域との連携を密にし，学校・地域相互の関係充実を	・学校HP，南小だより，はなまる連絡帳等による情報公開や広報活動を充実させる。 ・コミュニティ・スクールだより等で，学校運営協議会の取組や学校ボランティアの活用の様子等について知らせ，関心を持てるようにする。	A	・情報発信は、学校便りや学級通信などで行い、地域90%、保護者99%という高い評価だった。 ・保護者・地域との連携も、各学年において、生活科や総合的な学習の時間を活用して行った。今までにない取組(大正琴や生け花など)も見られた。	・学校からの情報発信はこれまで同様に、学校便りや学校HP等を活用して積極的に行う。 ・保護者・地域との連携は、学校運営協議会や公民館などの機関を十分に活用して、さらに計画的に行いたい。
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	校務等の効率化の促進	・「3K（可視化，共有化，効率化）で業務改善」を推進するとともに，教職員の時間外勤務について1か月当たり前年度比5％削減する。	・校務サーバー上で各分掌が情報共有を行いやすいように，フォルダ構成を工夫する。 ・SEI-Netや連絡掲示板を活用したり，行事予定の早めに提示したりしながら，資料のやり取りや職員間の連絡を効率的に行う。	B	・フォルダを準備することで、情報を共有することができた。校務分掌、全学年担任から引き継いだ教材、資料等活用することで、効率が上がった。	・フォルダに情報を整理していないものもある。職員全員で情報を共有していこうという意識を高めるために、声掛けをしていくことが必要。とくに、年度の終わりや初めには、フォルダ整理を促す。

②豊かな心の育成・・・感謝の気持ちと思いやりがあり，心のふれあいができる児童の育成

領域	評価項目	評価の観点（具体的	具体的目標	具体的方策	達成	成果と課題	具体的な改善策・向上策
教育活動	●心の教育	かかわる力の育成	・Q-Uテストの学級生活満足群の割合70％以上を目指す。	・友達との支え合いや助け合いを生む学級活動を仕組み，親和的な人間関係を育てる。 ・縦割り活動(掃除，遊び等)を充実させ，共感的人間関係を育てる。 ・校内の掲示など環境整備を充実させ，児	B	・学級満足群は全校で60%と目標をやや下回った。 ・朝の心タイムを取り入れ、学級のふれあいの時間を設けた。 ・縦割り活動では、掃除や遊びは一緒にするものの、反省などがワンパターンになりがちで	・縦割り掃除や遊びの反省に工夫をこらし、共感性を養えるようにする。 ・心タイムは継続して行い、学級活動を活性化させ、よりよい学級集団の形成を目指す。
		自己を律する力の育成	・「学校の決まりを守り，進んであいさつができたり，正しい言葉遣いをしたりしている」が80％以上を目指す。 ・毎月の生活目標の徹底させる。	・「南小のくらしの約束」を各家庭に配布し，家庭と連携を図りながら指導する。 ・毎月の生活目標について各学級で具現化し，がんばることを決め取り組む。 ・各学年の取り組み内容や状況について放送等で紹介し，頑張っていることを認める場を作る。	A	・90%以上の児童が「学校の決まりを守り、進んで挨拶ができたり、正しい言葉遣いをしたりしている」と答えている。 ・各学年で毎月の生活目標を具現化し、毎日確認し合うことで、児童の意識を高めることができた。	・学校でのいろいろな決まりについて児童と繰り返し確認をし、また家庭との連携を図りながら、落ち着いた学校生活を送れるように継続した指導をしていかなければならない。 ・校門や児童玄関でしている挨拶を、いつでもどこでもできるよう、称賛や励ましの声掛けを

	●いじめ問題への対応	相手を思いやる心の育成	・「友だちと仲良く活動することができている」が80%以上を目指す。	・Q－Uテストや生活アンケート，教育相談週間を年に2回実施して児童の実態を把握し，指導に生かす。 ・人権・同和教育や平和教育，命の教育を計画的に実践する。	A	・6月と11月にQUテストを実施した。また，毎月下旬に生活アンケートを行い，児童の実態を把握するとともに，個別指導に生かすことができた。 ・8月の平和集会，11月の人権週間・人権集会の取り組みを計画的に実践し，命や友だち	・来年度もQUテストや，毎月の生活アンケート等で，児童の実態把握に努め，児童一人ひとりが安心して過ごせる学級づくりを目指す。 ・平和集会や人権集会など早めに計画・準備して実践していく必要がある。
③確かな学力の育成･･･確かな知性と創造性をもち，自ら学び課題解決ができる児童の育成							
教育活動	●学力の向上	学ぶ意欲の向上と基礎基本の定着	・1月のCRTテストにおいて全学年全国平均を上回る。	・西部型授業を意識しながら授業を行う。とくに，何ができるようになればいいのか，何を考えればいいのかなど，児童が具体的にイメージできる「めあて」の提示や児童の発言を取り上げたり，キーワード等を示したりして，児童が「まとめ」を行うような授業を行う。 ・視覚化と思考を促すため，意図的・計画的な板書の工夫と，赤鉛筆と青鉛筆を有効に活用した授業を行う。・各学級でCRT調査等を分析し，結果に応じて「アシストシート」を活用する。朝の時間の国語タイムや算数タイム，また家庭学習に活用し，基礎・基本の定着を図る。「アシストシート」は使いやすいよう，クリアファイルに入れ整理する。また，国・算タイムの前日には，担任	B	・夏季休業中に教育センターから講師を迎え、本校の学力状況調査の結果をもとに研修したことを生かし、西部型授業で検証授業を行う（第5学年算数科・9月実施）ことができた。学習の進め方や指導について、共通理解し、実践に結び付けることができた。算数科だけでなく、他教科でも、西部型授業を実践し、広げていきたい。 ・アシストシートの活用を促すために、各学年・教科別にクリアファイルに綴じなおした。国語・算数タイム、宿題、学力状況テストやCRTテスト前の復習にも活用するよう、呼びかけた。国算タイムの前には、担任の机上に置くようにしたが、活用頻度が低かったようだ。	・来年度も、道徳の授業だけでなく、教科の研究授業を1本は行い、全職員で検証していく機会を設ける。 ・学習状況調査→結果の分析・考察→授業改善→実践とPDCAサイクルを意識して研修を行う。 ・アシストシートの活用を高めるため、Head部でプリントを印刷しておくなどして、使いたいときにすぐ使えるよう、準備をしておく。 ・家庭学習（自主学習）を進める。学習の進め方等を示すほか、自主学習ノートコンテスト等を行い、実践化へつなげる。
		特別支援教育の充実	・児童の実態を把握し，必要と認められたすべての児童に対して「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の策定，実施，評価を行う。	・計画的に子ども支援会議を開き，全職員の共通理解のもと，児童の支援に努める。 ・ユニバーサルデザイン教育を推進していくためやQ-Uテストを活用するために講師招聘の研修会を行う。	A	・支援会議は、支援委員会で協議した柱に沿って話し合い、全職員で共通理解することができた。 ・ユニバーサルデザイン教育について、Q－Uテストについての研修会を行った。	・来年度も、支援員を含め、全職員で共通理解をし、支援の必要な児童に対し必要な支援をしていく。 ・研修会を適宜行い、個に応じた支援ができるようにする。
④強い心と体の育成･･･強い意志と体力をもち最後まで頑張り抜く児童の育成							
教育活動	●健康・体つくり	外遊びの奨励と定着化	・「1週間のうちに3回以上は外で遊ぶ」と回答する児童が85%を超えるようにする。	・業間や昼休みの外遊びの奨励と働きかけの工夫を委員会活動を通して行い，外遊びをよくする児童とそうでない児童の二極化を防ぐ。 ・縦割りグループ遊びの奨励を行う。	A	・朝や給食時間の放送で外遊びを奨励することができ、外遊びを増やすことができた。 ・縦割り活動では、6年生が計画通りに運営することができた。	・6年生が計画するときに、運動量が確保できるような遊びの声かけを行いたい。
		望ましい生活習慣の形成	・早寝の習慣が定着している児童の割合を80%以上，朝ごはんを食べて登校する児童の割合を95%以上にする。	・望ましい生活習慣の意識づけのため，9月・1月の初めに1週間続けての健康チエックを行い，その結果を家庭に返し，家庭の意識も高める。	A	・「すこやか健康チエック」を9月1月の2回、「学習のきまり」チエック週間と同じ日程で行ったことで、学習時間を含めた家庭での生活リズムが捉えやすかった。結果は保健だよりで家庭に返すことができた。	・日常の啓発指導が大切なので、児童への保健だより発行時に、短時間でいいので回数多く学級指導をしていきたい。
		食育の推進	・食事のマナーを身につけ，食べ物への感謝を忘れず，嫌いな食べ物でも食べることに挑戦する児童を育てる。	・月ごとの給食のめあてを教室に掲示し，給食時間に，食べ物の栄養と食事に関するマナーについて指導を行う。 ・栽培活動を通して，食べ物への興味関心・感謝の心を育てる。	A	・月ごとの給食のめあてを学級や給食受け口に掲示し、給食時間に学年に応じた指導を行うことができた。 ・給食の残滓が少なく、食器の片付けもきれいにできている。 ・栽培活動を通して、食育の実践もできた。	・月ごとのめあての提示は、今後も継続して行っていきたい。 ・すこやか委員会を中心に、給食時間の献立紹介の放送を継続し、食べ物への興味関心を持たせることに繋げたい。